

第 9 期中央教育審議会生涯学習分科会

諮問に関連する意見

平成 30 年 3 月 15 日 (13:00-15:00)

香川大学生涯学習教育研究センター

清國 祐二

話題提供

①生涯学習・社会教育実践交流会の今日的意義

②社会教育の中で育まれる行政職員像

③新しい地域の担い手

「おやじの会」＝新たな地縁コミュニティ



①生涯学習・社会教育実践交流会（1）

近年、各地に増えている実践交流会

中国・四国・九州地区生涯教育実践研究交流会

（福岡県で開催 先駆け）

北海道生涯学習研究集会

（日本生涯教育学会北海道支部）

人づくり・地域づくりフォーラム in 山口

（全国の優れた実践が集う交流会）

地域教育実践交流集会

（愛媛県で開催 手づくり交流会）

地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会

（大分県で開催 組織ネットワークで運営）

広島県生涯学習研究実践交流会

（広島県立生涯学習センターと日本生涯教育学会瀬戸内支部）

①生涯学習・社会教育実践交流会（2）

ここ数年で誕生した実践交流会

高知県社会教育実践交流会

（社会教育委員の提言から実現）

宮崎県生涯学習実践研究交流会

（学びを通じた自己実現と地域の課題解決を目指す）

関東近県生涯学習・社会教育実践研究交流会

（先行する取組を学び立ち上げた関東初の交流会）

地方創生コンファレンス i n 徳島

（趣旨は教育を軸とした多様な地域実践交流会）



①生涯学習・社会教育実践交流会（3）

今日的意義は何か？

- 実践の点在ではもったいない
 - 実践の持ち寄りが活動の活性化につながる
- 相対的位置（評価）を知りたい
 - 実践の質を確かめたい 実践をぶつけない
- 情報を得て、創発につなぎたい
 - マンネリの打破 新たな出発をしたい
- 輝く人同士のネットワークを築きたい
 - 同志を見つけて 人間関係を広げたい

次のステップに進みたい！

～楽しいだけではない、生かす学びへ～

話題提供

①生涯学習・社会教育実践交流会の今日的意義

②社会教育の中で育まれる行政職員

③新しい地域の担い手

「おやじの会」＝新たな地縁コミュニティ



②社会教育の中で育まれる行政職員（1）

島根県邑南町の例から

○公民館主事には正規の役場職員が配置される

- 地域で共に汗をかく経験が後の仕事に生かせる
（合併前の町ごとに
その考え方や位置づけには違いもあった）

○邑南町教育長への聞き取り

- 公民館主事経験者への期待は厚い
社会教育主事も増やしたいが予算上の制約あり
（ネット配信等の活用をしやすい）
「社会教育」を経験することは
現場の課題を肌身で感じ
そこでいい働きをすれば町民の信頼が得られ
結果的に、職員の成長につながる

②社会教育の中で育まれる行政職員（2）

島根県邑南町の特色ある社会教育の取組

○公民館単位で「地域学校」の設置

- 地域の過去（歴史）や資源を学び、まとめる
（できれば）地域学習の副教材を作成し、
地域の子供と一緒に学ぶところへつなぐ
公民館主事が根気強く学びを支援する

○学校単位で「ふるさと教育」の実施（県の方針）

- ふるさとを（から）学ぶだけでなく、
地域課題の発見を目指し、
課題解決の方法を探り、地域住民に発表する
その後、解決への取り組み方法を探る

「おおなんドリーム学びのつどい」（発表会）

成果：邑南野菜プロデュース（農業振興）

被災したキャンプ場の再興（体験・交流の場復活）



③社会教育の中で育まれる行政職員（3）

そこから何が生まれてくるのか？

○地域学校のねらいは？

- 「学び」を引き出すファシリテーターの役割
（行政職員なので）なかなかうまく進まない
地域の未来のために 地域の思いを形にする
人と関わり、学ぶことで「教育的素養」が高まる

○地域課題の解決の視点で心を育む

- 地域の大人と一緒に考え、行動することで
子供と大人との信頼関係が育まれる
地域への愛着が芽生える
地域課題への当事者目線が養われる

このような視点や取組が

地方の行政職員には特に求められるのではないか
社会教育の取組の中で人は着実に育っている



③社会教育の中で育まれる行政職員（４）

ネットワーク型行政は実現できるか？

○行政の基本形はライン組織

- ヒエラルキーが定まっており、
命令系統と責任体制が明確である
部門間のネットワークは成立しづらい

○スタッフ組織をどう組み込むかが課題

- 社会教育主事有資格者を
教育にも軸足を置ける職員へ
（社会教育を経験した社会教育士（20年以降））
スタッフには専門性と専門研修を付与する

これが実現すれば、
社会教育施設の所管については
教育行政において政治的中立性や、継続性・安定性を
保ちつつ、さまざまな利活用の仕方ができるだろう

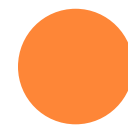
話題提供

①生涯学習・社会教育実践交流会の今日的意義

②社会教育の中で育まれる行政職員

③新しい地域の担い手

「おやじの会」 = 新たな地縁コミュニティ



③新しい地域の担い手（1）

地縁組織・社会教育関係団体の苦境

○自治会（代表的な地縁団体）加入率低下

- 若者の意識に自治会は根付いていない
高齢者は役を引き受けられず退会する
＜自治会員でなくても行政サービスは同じ＞

○NPOやアソシエーション（新コミュニティ）の増加

- 明確な目的をもつ集団が増えている
P機能の強いコミュニティ
M機能の強いコミュニティ の双方が存立
これらのネットワークは①に通じる

その中間的な組織としての「おやじの会」

- 確実に10～20年後の地域の担い手
「地縁」でもあり「志縁」でもある
多様な能力をもった専門職集団



③新しい地域の担い手 (2)

事例紹介 (さぬきおやじ連合)

○「おやじの会」発足の仕方はさまざま

→ P T Aの父親部 (現役保護者) から

P T A・スポ少等のOBから

地域組織から (かつての青年会、壮年会)

○「父親」と「親父」・・・「地域」との関わり

→ 地域の象徴としての親父 (シンボリックな存在)

少年の心を持ち合わせる (v s 打算&損得勘定)

「連合」は学び合い、支え合い、高め合う

○地域を超えた1,000人の「逃走中」の実現!

→ 4 5秒間に凝縮した「動画」の視聴

どうしてこんなことができるのか?

教育行政と一般行政との決定的な「差」は?

リスクを受け止め、信じて、寄り添い、つなぐところ

ご静聴ありがとうございました

